

1回でわかるコミュニティ・スクール研修 実施レポート

実施日：令和2年9月17日（木）10時～16時 会場：県生涯学習センター 参加者：112名

中止となった地域活性化研修の代替として、近年関心が高まっている「コミュニティ・スクール」と、学校・地域の人々が意見をまとめていく上で効果的な技法である「熟議」について、1回でまとめて学ぶ『1回でわかるコミュニティ・スクール研修 ～学校から見るコミュニティ・スクール 地域から見るコミュニティ・スクール～』を実施しました。100名を超える参加をいただいたため、講堂をメイン会場とし、サブ会場となった講堂ロビーや地下展示ホールをZoomで接続し、実施しました。

【講義】

当センターの皆川 雅仁主幹が、『なぜコミュニティ・スクールを選択したか ～地域課題の解決と学校の社会的責任～』のタイトルで講演を行いました。

講義では最初に、東日本大震災後のボランティア体験を通じて得た「学校と地域の関係の深さが、復興スピードを左右する」「学校は地域の重要拠点」「児童・生徒は地域の宝」との知見をもとに、校長として赴任した学校で地域学校防災協議会を設立し、それがコミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置している学校）へと移行したことを学びました。その上で、コミュニティ・スクールの定義や設置の目的、話し合うべきことなどの制度的側面を説明し、「学校は地域のものであり、だからこそ学校は地域を意識せずに様々な計画（教育課程）を作成することはできない。このような、社会に開かれた教育課程を編成するためには、コミュニティ・スクールが最適なシステムだ」と、コミュニティ・スクールの重要性・必要性を強く説きました。

後半では、実際のコミュニティ・スクールへの取組を紹介しました。取組を進めていくにつれて、学校と地域の連携スタイルは、「情報交換・連絡調整的」→「相互補完的」→「協働的」へと変化し、子どもたちの学びの根っこは「地域のお世話に」→「地域に恩返しを」→「地域とともに」へと変化していったこと、そしてそれらを通じて学校と地域が目標を共有し、それぞれが必要な動きを、必要なとき、必要な程度にする『運命協働体』ができあがっていったことを説明しました。その上で、熟議の重要性やLRDCマネジメントサイクルについて言及し、地域の未来を担う子どもたちの育成のため、学校と地域とをゆるやかなネットワークでつなぐコミュニティ・スクールの意義を重ねて強調しました。



【ワークショップ】

午後は、当センターの柏木 睦主任社会教育主事によるワークショップ「熟議を実際に体験しよう」が行われました。

熟議とは、「熟慮して議論する」ことであり、立場が異なる様々な考えを持つ人がテーマに沿って話し合いを進めていきます。今回は「秋田県の子どもたちに、どのような子どもに育ててほしいか」というテーマを設定し、4名前後の班に分かれて話し合いを行いました。

熟議を進め、様々な意見が出てくる中で、熟議のポイントが示されていきました。そのポイントとは、①目指すものは「地図よりコンパス」（大事なものは方向性を決めること）、②レディネスを揃えるのが最も大事、③アイスブレイクは目的を持って行う、④話し合いの形式は何でもいい（ワールドカフェ形式などにこだわる必要はない）、⑤相手の意見をいきなり否定しない／熟議は全員が話す場、の5つです。

最後には、熟議は様々な立場の人が方向性を定めていくために効果的な意見交換の手段であり、コミュニティ・スクールを進めていく上では、学校と地域が今後の方向性を決めていくためには効果があることが説明され、参加者は納得した表情で聞き入っていました。



【参加者の声】（抜粋）

- ・CSというものについて、よく把握できないまま関わってきたモヤモヤがスッキリしました。ありがとうございました。
- ・熟議を経験したことがないのに、各学校や地域に説明しなければならず、良い経験ができました。
- ・公民館勤務ですが、地域との連携がいかに大事か、改めて勉強になりました。熟議もいろんな立場の方とお話ができ新たな気づきがありました。
- ・「コミュニティ・スクールとは」から熟議まで、まさに一回でわかる内容だった。